

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

染め物、編み物

<テーマの設定理由>

- ・洋服の色にこだわりや、興味のある子どもがたくさんいた。
- ・アルパカの毛に触れ、その気持ちよさを味わっていた。
- ・布がどのようにつくられるか、染めたり、編んだりすることで子どもたちと相談しながら具体的に体験して楽しみたいため。
- ・洋服の色にこだわりや、興味のある子どもがたくさんいた。

2. 活動スケジュール

- | | |
|-----|---|
| 5月 | こいのぼりを作るため、藍の粉で絞り染めをする。
感想を話し合い、藍をそだててみることにする。 |
| 7月 | 5月に使った藍を自分たちで育てる。藍の生葉の状態を観察する。 |
| 9月 | 担任のペルー土産でアルパカの毛に触れる。気持ちよさを感している姿がある。 |
| 9月 | 藍の生葉で、アルパカと羊の毛を染める。生葉をちぎり、染液を作り、染めるまでの工程をすべて子どもたちが行った。感想を話し合った。 |
| 10月 | 自分たちが染めた毛が糸になる過程を見る(紡ぎ車での紡ぎの実演) |
| 11月 | カレーパーティーで使った玉ねぎの皮でアルパカと羊の毛を染める |
| 11月 | 染めた羊の毛でフェルト作品を作る |
| 12月 | 保護者にフェルト作品をプレゼントする |
| 1月 | アルパカの毛を使って編み物をする |

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

5月 こいのぼりを作るため、藍の粉で絞り染めをする。

染液を触ることや手が染まることに抵抗感があつたりする子がいることを想定し、子ども用の手袋を用意した。水に藍の粉を入れる工程を見せることで、水の色が変わる様子を見せた。手袋があつたことで、触ることを嫌がる子はほとんどいなかった。真剣な面持ちの子、変化をよく見ている子、「詰めたーい」と嬉しそうなお子。藍はジーンズを染める時にも使うことを話すと興味を持っている子がいた。活動後は、ドキュメンテーションを作り、子どもたちが見て振り返ることができるようにした。他クラスの子や保護者に自分たちが体験したことを伝えていた。

集まりの時に藍の粉は植物からできていることを伝えると「みてみたい。」「育てたい」との声が上がる。

7月 藍を種から育てる。

水やりをして藍の生育する様子を観察した。

9月 担任のペルー土産でアルパカの毛に触れる。

ペルーのお土産で、実際のアルパカの毛を使った人形を子どもたちに紹介した。「きもちいいね」と触り心地を楽しんでいた。保育室に飾ると毎日のように触っている子もいた。

9月 藍の生葉で、アルパカと羊の毛を染める。

藍の生育が悪く、苗を購入することで染めることができた。子どもたちに育たなかったことを伝えると、どうしたらよかったのか子どもたちから意見が出た。

生葉をちぎり、染液を作り、染めるまでの工程をすべて子どもたちが行った。茎の部分は使わないこと、葉を丁寧にできる限りすべて取りきるように伝えると、率先して子どもたちが茎と生葉を分けていた。取れた量を子どもたちの前で測ると、何グラム取ることができたか興味を示していた。一人一人が染めることができるように、たらいに染液を分けた。毛の扱い方を伝えると意識して取り組む様子が見られ、何度か染液につけることで染まっていくアルパカと羊の毛の変化を観察することができた。

活動後、ドキュメンテーションを作り貼りだした。自分たちが活動している様子を見て振り返ることができた。

10月 自分たちが染めた毛が糸になる過程を見る(スピンドルでの紡ぎの実演)

ふわふわの毛がどのように糸になるのかをスピンドルを実際に使って担任が実演した。コマのような形状になっているため、子どもたちひとりひとり順番にスピンドルを回す工程を体験した。ペイブレードが好きで、コマに興味がある子どもが多く、回すことに意欲を示していた。

11月 カレーパーティーで使った玉ねぎの皮でアルパカと羊の毛を染める

身近な材料で染物ができるということを知る機会にしたいと思い、玉ねぎ染めを行った。玉ねぎの皮むきから子どもたちが準備をした。ひとりひとり染液に羊毛を入れて、色の変化を観察した。家でもできることを伝えると、やってみたいという声が聞かれたので保護者にも玉ねぎでハンカチやタオルを染められることを説明した。

11月 染めた羊毛の毛でフェルトボールを作る

染めた羊毛を実際に使ってなにかつくりたいというこえがあったので、子どもたちが自分でできる難易度の活動を用意した。コツがつかめてくると丸くまとまりのあるフェルトボールを作ることができた。

子どもたちが染めたものだけでなく、染めていない羊の原毛も用意することで色を比較し、羊そのものの色にも触れることができるようにした。「ちがうね。そまってるね」など感想があった。

保護者へのクリスマスプレゼントとして製作したので、家族のひとがどの色が好きかをイメージしながら作っていた。

12月 保護者にフェルト作品をプレゼントする

フェルトボールで飾り付けたリースをプレゼントした。どの色が染めたものか自分たちで紹介していた。

2月 アルパカの糸を使って織物をする

アルパカの糸を縦糸として使用し、織物を行った。慣れてくると何個も作っていた。上達したので、織機を少し大きくしたものを提案してみると「やってみたい！」とほとんどの子が取り組んだ。家族にプレゼントをしたり、キーホルダーにしたりして作ることを楽しんでた。市販の糸も使用し、様々な糸に触れる経験となった。





4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・羊やアルパカの毛の感触を楽しむ姿は想像していたが、「くさい」「においがする」と匂いに強く関心がある姿が見られた。
- ・藍の生葉染めでは、一連の工程を1時間近くかけて行ったが、最後まで目的意識をもって取り組むことができた。
- ・素材づくりの原点の部分(染めて、糸にする)に触れて、一からモノを作るということを経験する機会は現代で生活する子どもたちにとって貴重であり必要な経験であることを今回の活動を一年通して行っていくことで強く感じた。
- ・自分でそめたもの、じぶんたちで紡いだ糸は子どもにとっては特別なようで、プレゼントづくりや編むことも普段の毛糸や羊毛などを使うより、意欲が高まった。子どもにとっての実体験の大切さを改めて感じた。今回は大量につくれたわけではないので、自由に遊ぶことはできなかった。そのように用意していたらまたもっとちがった子どもの探求が行われたように思う。今後の課題にしたい。
- ・今回子どもにわかりやすいようにとドキュメントにして張り出した。振り返って話し合う様子や他のクラスの先生や子どもたちに説明する姿がみられたこともと探求して行くときに、この方法は良いものだと思うので今後の保育にいかしていきたい。保護者からも理解が良く得られたと思う。